

PDF テスト文書その2

日本語の2

ファイル番号6

石炭をば早や積み果てつ。中等室の卓のほとりはいと静にて、

しねつとう

熾熱燈の光の晴れがましきも徒なり。今宵は夜毎にこゝに集ひ

かるた

来る骨牌仲間も「ホテル」に宿りて、舟に残れるは余一人のみなれば。

ひごろ

五年前の事なりしが、平生の望足りて、洋行の官命を蒙り、このセイゴンの港まで來し頃は、目に見るもの、耳に聞くもの、一つとして新ならぬはなく、筆に任せて書き記しつる紀行文日ごとに幾千言をかなしけむ、當時の新聞に載せられて、世の人にもてはや

をさな

されしかど、今日になりておもへば、穉き思想、身の程知らぬ放

よのつね

言、さらぬも尋常の動植金石、さては風俗などをさへ珍しげにしるしゝを、心ある人はいかにか見けむ。こたびは途に上りしとき、

に き

日記ものせむとて買ひし冊子もまだ白紙のまゝなるは、獨逸にて
物學びせし間に、一種の「ニル、アドミラリイ」の氣象をや養ひ得
たりけむ、あらず、これには別に故あり。

——森鷗外『舞姫』より